

第2回南牧村小中学校建設検討委員会 議事録

議 事 日 程

令和7年2月6日（木曜日）午後 7時00分開会

1 開 会

2 あいさつ

3 諮問書の訂正について

4 討 議

①南牧村の児童生徒数の推移について

平成28年12月に出された南牧村学校づくり検討委員会の答申について

②次世代を生きる子どもたちがどんな人になってほしいか（グループ別に意見交換）

③南牧村の子どもにとってどんな学びが必要か（グループ別に意見交換）

5 その他

（振り返りカード記入）

6 閉 会

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

会議出席者

会長 中嶋光久

委員 吉澤忠彦 委員 高見澤真紀 委員 菊池丈彦 委員 井出けさお

委員 小川武紀 委員 岡村聡 委員 小池心吾 委員 井出淳一 委員 奥石剛

委員 大村茜 委員 津金武幸 委員 菊池利享 委員 高見澤眞

委員 高見澤一将 委員 吉澤政紀 委員 吉澤登見恵 委員 横森渚

委員 吉澤康代 委員 前田英敬 委員 井出良律 委員 小池孝 委員 菊池実

委員 吉澤克次 委員 渡辺忠一郎 委員 有坂勇樹 委員 高見澤幸史

委員 井出正尚 委員 菊池佑亮 委員 横森康幸 委員 河合ゆう

委員 原田雅明 委員 菊池静香 委員 上村弘幸 委員 成瀬豊

委員 高見澤みち子 委員 大笈理良 委員 井出さとみ

オブザーバー

議会議長 吉澤均 議会社会文教委員長 井出邦彦

事務局職員出席者

教育委員会 教育長 今井力 次長 津金義秀 指導主事 渡邊元子

主事 宮下真依

総務課 課長 津金初男 課長補佐 廣田啓一

開会 午後 7時00分

◎開会の宣告

○津金教育次長 本日は遅い時間にお集まりいただきありがとうございます。

ただいまから第2回南牧村小中学校建設検討委員会を開会します。

本日の会議を傍聴される方にお知らせします。

会議の傍聴につきましては、南牧村教育委員会傍聴の規則を適用させていただきます。

傍聴される方は意見を述べることはできません。また、討議のワークショップには参加できませんのでご承知おきください。

また、傍聴される方にお伝えします。この会議の撮影及び録音しないようお願いいたします。

委員会の内容は議事録を公開しますので、そちらをご覧ください。

委員の方に、前回、第1回の議事録を配付してあります。ご確認いただき、訂正のある場合は、2月13日木曜日までに事務局へ連絡してください。修正してホームページに公開いたします。

また、委員の皆様にお伝えいたします。議事録を作成するので、意見、質問を述べる前にお名前を言ってからお願いいたします。

本日配付となる資料について確認します。

第2回南牧村小中学校建設検討委員会次第とある冊子、お尋ね書、振り返りカード、第1回会議録、グループ討議用の付箋です。

また、受付でお配りしました名札についてですが、本日はグループ討議を予定しております。グループのコーディネーターが皆様のお名前が分かるように名札を用意しました。札を見えるところにつけていただくようお願いいたします。お帰りの際は入り口の箱にお戻ししてお帰りください。

◎あいさつ

○津金教育次長 それでは、中嶋会長からご挨拶をお願いいたします。

○中嶋会長 皆さん、こんばんは。

冒頭早速ですが、1つ南牧中学校の授業の紹介をさせていただきます。

実は昨日中学校の参観日でした。その中で、全校生徒 79 名の子供たちが一人一人の意見発表が行われました。内容は、自分が決めたテーマに沿って事前に調査を行い、自分の考察や意見を5分程度にまとめて、みんなの前で発表するというものでした。自らの思いや意見を人に伝える学習の形は、これから求められるスキルとしていいことだなと思いました。私たちの時代には考えられないような学習方法だったと思います。時代に合った授業の取組をしていただいておりますことに深く感謝を申し上げます。

私の手元に昨日保護者に配られた、表裏でタイムスケジュールが載っています。七十数升あって、子供たち一人一人の名前が載っていて、何時からこの子が発表するよ、テーマはこうだよというものであります。

中身を少し紹介させていただきますと、「人口をもっと増やす方法は?」「子供も住みやすい村づくり」「南牧の野菜はどこまで届いているのか?」「鹿の骨の有効活用は?」など、この村のその子から見た課題を自分なりに調べて、皆さんに伝えるという発表内容でした。とても時代に合ったいい学習方法だと思い、感銘を受けました。

さて、南牧の学校問題につきましては、平成 28 年からの学校づくり委員会に続き、平成 29 年からは学校建設検討委員会を経て、多くの方のご協力の下、活発な議論を進めてられました。

しかしながら、平成 29 年 12 月の中間報告におきまして、さらに最も適した望ましい教育環境に向けて議論を深める。また、候補地についても2つの候補地という形で、結論が出ないまま報告されております。それを受ける形で当委員会が再発足しているということであり

現在、私、PTA会長という役回りもあり、各学校問題がどうなっているのかとか、子供

が少なくなっていてこのままだと心配だし、いつになったら一緒になるんだというような声が多数、声が届いております。

実は、私の長男は今、21 歳になりますが、北小の時に 1 つ上のクラスが児童数 4 名ということがあります。私の子供は二十数名いましたが、そのクラスは少なかったことで、そのクラスの子供たちの様子はよく覚えています。一人一人は本当に活発なお子さんだったんだけど、先生方も少人数での活動方法、学習方法もとても工夫されていたと思います。ただ、やはり体育の時間とか、音楽会の時間とか、私が見ていてもとても寂しいような、何となくかわいそうな、そういうことを思い起こしています。

今、南牧の子供たちの数は、小学校区ごとに見ると 10 人を割るような数となっており、少なくとも小学校だけでも早急な統合が望まれるところだと思っております。

今までに行われました委員会の皆様の意見や地域からいただいた意見を基に、当委員会でも望ましい教育の在り方、それに基づいた形がどのような形がいいのか、委員の皆様のお知恵をいただきながら、成し遂げていけたらと思っております。よろしくお願いいたします。

○津金教育次長 ありがとうございます。

◎諮問書の訂正について

○津金教育次長 次に、諮問書の訂正について、教育長より説明をします。

○今井教育長 皆さん、こんばんは。教育長の今井でございます。

私から今、司会者からお話がありました諮問書の訂正という部分について、お話をさせていただきます。

今、皆様のお手元にはお願い書という形の書面が 1 枚あるかと思いますが、実は前回の第 1 回の建設検討委員会にて、有坂村長から諮問書を読み上げて、委員会の皆様へ南牧村の小中学校に望まれる学校環境の在り方についてということで、諮問がされたところです。

その会議の実は翌日に、村民のある方から諮問書というものは、法律や条例で定められた諮問機関で行われるものであって、南牧村の小中学校建設検討委員会是要項で定められていることから、諮問書は適当ではないのではないかというようなご指摘を受けました。

このご指摘を受けまして、私どもで関係機関ですとか、私どもで研究いたしました結果、諮問書を使うことについては一概に違法や間違いではないという確認をいたしました。しかし、このたびご指摘について、一部理解できる点もあるために、このご指摘にあった内容を受け入れて表記を変更し、委員会へ再提出させていただくことといたしました。私たちは、

今回のご指摘内容に不要な時間を割くのではなくて、南牧村長からお尋ねのあった内容について、本質の部分について十分に協議、検討すべきだと考えたからでございます。

そのため、前回の会議で皆様のお手元にお配りいたしました諮問書を改め、お尋ね書といたしました。

何とぞご理解をいただきまして、今後のご議論をお願いしたいところでございます。よろしくお願いいたします。

○津金教育次長 では、討議に移らせていただきます。

進行を中嶋会長、お願いいたします。

◎討議

○中嶋会長 それでは、討議に入ります。

まず初めに、幾つかを確認して討議に入りたいと思います。

2つあります。

1つは、今後南牧村の子供がどの様に推移していくかについて、もう一つは、平成 28 年 12 月に出された南牧村学校づくり検討委員会の答申についてであります。

では、まず南牧村児童生徒数の推移について、教育委員会事務局から説明をお願いいたします。

○渡邊教委指導主事 教育委員会の渡辺です。

冊子の 3 ページをご覧ください。

座らせていただきます。

まず、これからの南牧村の子供の数がどうなっていくのかを皆さんと確認して、討議に入っていきたいと思います。

このグラフは令和 6 年 4 月現在の南牧村の子供の数の生まれた年度別のグラフです。

令和 6 年 4 月現在の人口集計に基づいて作成していますので、ちょっと若干人数が違うところもありますがご了承ください。

まず、一番左側 9 名となっていますが、これは令和 6 年 4 月から令和 7 年 1 月までに生まれた人数です。まだ 2 月、3 月に生まれる予定のお子さんの数は入っておりません。

この表を見ますと、30 名を超える年は平成 20 年の後、平成 20 年生まれの後ありません。国の学級編制の基準は 35 人を超えると 2 学級となりますので、小学校が統合したとしても 2 学級になる学年はないということになります。また、小学校は文部科学省に細やかプラン

という特区申請をしています。31 人以上の生徒で2学級とすることができます。しかし、昨年の中学3年生34名を最後に、今後30人を超えるということはなくなる可能性が高いのではないかと、この表を見て思います。

次です、北小区、南小区ごとの児童数をグラフにしてみました。

どちらも一桁、5人とか3人、8人とか4人、7人、6人などの学年があります。5人以下の学年も出てきています。

次です、年度別の児童生徒数の推移です。

今年度は小中合わせて193名ですが、7年後の令和13年には175人になります。今よりも24人減となります。

小中学校別にグラフ化してみました。令和13年には小学校は100人を切るようになります。この状態が続いていきますと、10年後には小学校を統合したとしても、今の南小の規模の学校になるのではないかと思います。

教育委員会としては、小学校の統合は喫緊の課題であると考えています。

以上です。

○中嶋会長 ありがとうございます。

次に、平成28年12月に出された南牧村学校づくり検討委員会の答申について、今井教育長から説明をお願いいたします。

○今井教育長 それでは、私から平成28年12月に南牧村学校づくり検討委員会で出されました答申の内容について、お話をさせていただきます。

南牧村学校づくり検討委員会では、まず大きな項目として、こういった答申を出しています。

現在ある2校の小学校を統合し、統合小学校と中学校において、特色ある小中一貫教育を目指すというものです。

それで、これに付随した意見といたしまして、8点上げられています。

まず、1つは、児童・生徒にとって最も望ましい教育環境を早急に実現するため、小中一貫教育の研究を深め、ふるさと学習などを中心とした南牧村の学校教育ビジョンが確実に実施されるように努められたい。

2つ目、統合に当たっては、新しい学校施設を建設されたい。

3つ目、建設地は既存の小中学校敷地、または新設も含め、最も最適な場所を選定されたい。

4つ目、児童・生徒の通学手段は、総合的に村が講じられたい。

5つ目、新たな学校は放課後自習できるスペースや児童クラブ等の多目的な施設を併設されたい。また、ほかの公共施設との複合化や住民の交流の場となる学校を拠点とした地域コミュニティの形成に資するものとされたい。

6つ目、厳しい冬の期間、児童・生徒が運動の機会を確保できる施設を造られたい。

7つ目、学校がなくなる地域の振興に配慮されたい。

8つ目、今後、住民、保護者の声を直接的に聴取し、丁寧な合意形成を図られたいというものでした。

今、児童・生徒の推移を私どもの渡辺から説明させていただきましたが、小学校の統合につきましては、早急に考えていかなければならないことと考えております。

この答申については、白紙に戻すのではなくて、この答申を基にいたしまして、これから建設検討委員会で議論をスタートさせていただきたいと考えております。

私からは以上でございます。

○中嶋会長 ありがとうございます。

ただいま教育委員会より説明がございましたが、質問がありましたら伺いたいと思います。よろしいでしょうか。

では、次ですが、討議のほうに入ります。

ここからはグループ討議の形式で行いたいと思います。

平成28年12月に出された南牧村学校づくり検討委員会の中にもありましたが、南牧村の教育ビジョンは、私たちがこれから検討を進めていく内容に大きく関わってきます。昨年、教育委員会で南牧村が目指す子供の未来像が提案されていますので、それを基に皆さんにも考えていただきたいと思います。

まず、教育委員会事務局より説明をお願いします。

○渡辺教委指導主事 お願いいたします。

教育委員会で考えた未来の子供像について説明させていただきます。

お手元に付箋があると思いますので、説明を聞きながら、自分の考える子供像はこうだなというようなのをメモをしながら、グループ討議のほうにスムーズに入っていけるようにご準備もお願いしたいと思います。

昨年度、教育委員会では、村民の有志の皆様にお集まりいただきまして、3回にわたってこれからの南牧村の学校というタイトルでワークショップを行いました。そのワークショッ

プでは、どんな子供に育ってほしいか、学校教育に望むこと、新しい学校について、義務教育学校について、学校の施設についてなどが話し合われました。

ワークショップの中で南牧村の子供像が話し合われており、次のような意見が出されました。

他者を認めながら多様性も認め、自分の考えを持ってほしい、既成概念にとらわれない自由な発想、創意工夫ができる、ギャップや を乗り越えられる力、失敗してもくじけない、人の痛みが分かる、駄目なこといいことが分かる、本質を見抜く力、人間関係を築く力、物おじしない子、自分の考えを発信できる力、コミュニケーション能力、自主性を育てる、いろんな人と関わる、協調性、このような多数のご意見が出されました。

ワークショップでのご意見を踏まえながら、南牧村の子供未来像、次世代を生き抜く子供について、教育委員の皆さんと話し合い、まとめました。それがこちらになります。

1つ目は、自分も相手も大切にできる子です。

自分に自信が持てて、自分を大切に思える。自尊感情を持った子供。一方、他人を認め尊重できる子供。自死やいじめなどの事件が頻繁に耳にする現代に、自分も相手も尊重できる子供は、次世代を生き抜くための要素と言えると思います。

2つ目は、創造力を働かせ、自分で考えて判断できる子です。

お集まりの皆さんもご承知のとおり、AI、人工知能が急速に社会に広がっています。まさに人工知能時代の到来です。人工知能時代がやってきたら、私たち人間はどうなってしまふのでしょうか。脳科学者の茂木健一郎さんは、そうなったら人間は考えなくなると言っています。つまり、何でも問いかければ答えを出してくれる人工知能に人間が頼ってしまって、自分の頭で考えなくなってしまうというのです。茂木さんは子供たちに将来何が必要なのかということに、自ら判断して進んでいく力と言っていました。

そういうお話を聞いて、教育委員会では想像力を働かせ、自分で考えて判断できる子は、これからの時代に必要な知識でないかと考えています。

3つ目は、南牧村を愛する子です。

自分が生まれたところのよさはふるさとを離れたときに分かると思いますが、今、ここに住んでいるときから南牧のよさに触れ、南牧を好きでいてほしいと思います。先ほど会長のさんのお話にあったような中学で行われている学習が、これにつながっていくのかなと思っています。

4つ目は、チャレンジする勇気が持てる子供です。

チャレンジの言葉にはいろいろな意味を込めて使っています。今の子供たちは失敗することを嫌います。大人もできるだけ失敗しないようにお膳立てをしてあげてしまいます。それが子供たちを生きにくくさせているのではないかと考えます。失敗したらやり直せば失敗ではない。そのためのチャレンジが大切と考えています。また、人間は生まれてから成長し、社会に出ていく上で様々な経験をします。様々な困難にも遭遇します。子供たちが方法を変えたり、工夫したりしながら、やり続けることのできる力が必要です。子供には大いにチャレンジしてほしいと思います。

今、申し上げた4つの具体的な子供像を実現するためには、どのようにしたらよいか考えてみました。

現在は両親の共働きは当たり前のようになり、かつてのようにおじいちゃん、おばあちゃんに子供の面倒を見てもらうといった家族の形は、南牧村でも減少しています。学校が終わってから放課後児童クラブへ通う子供も増えています。これからは多くの人が子供と関わり育てていく時代です。皆様の力もお借りして、地域みんなで子供を育てる。大人も子供から元気もらう、大人の皆さんも子供とともに学び、共に成長する村、共育ち、共学びの村を目指したいと考えています。

教育委員会として案をつくってみました。また、皆さんのお考えもここに付け加えさせてください。

以上です。

○中嶋会長 ありがとうございます。

それでは、各グループの司会の方を中心に話し合いを進めていただくわけですが、今、渡辺先生のほうから参考の発表があったので、それも参考にしながら、ご自分の考える子供の像を出し合って意見交換をいただきたいと思います。お手元にある付箋に発言した内容を記載していただきまして、目の前の模造紙のほうに貼っていただきたいというふうに思います。

コーディネーターの方の紹介をさせていただきます。

まず、Aグループは●●さん、それからBグループ、●●さん、それからCグループ、●●さん、それからDグループ●●さん、それからEグループ●●さんでございます。よろしく願いいたします。

各グループの意見交換の内容につきましては、後ほど共有させていただきます。

本日のグループ討議は、子供の像を自由に話していただければ結構です。

一つだけ話し合いのルールを提案させてください。それは、他の人の考えにポジティブな言

葉をかけてください。今日参加されている皆さんは様々なお考えをお持ちです。自分の考えに近い方も自分の考えと違うこともあると思います。この場にいる皆さんが自分の考えを言ってよかったと思ってお帰りになれるようお願いします。

それでは、コーディネーターの皆さん、8時をめにグループ討議のほうを進めていただきたいと思います。よろしくお願いします。

(グループ別に意見交換)

○中嶋会長 8時となりました。

それでは、意見を共有してまいりたいと思います。

各グループ2分程度で発表いただきたいと思います。主立ったところ、たくさん意見出ていると思いますので、主立ったところとか、ちょっと変わったところとか、いいなというようなところを発表いただければと思います。

では、最初にAグループよろしいでしょうか。

○委員 Aグループで皆さんから出されたもので、自分も相手も大切にできる子に分類したのが、思いやりのある子、友達と喜び合える人間になってほしい、常識のある人間、他者の多様性を認め、協調と自己認識、世代間でのコミュニケーションを大切にできる、これは南牧村を愛する子にも入るかなというところでは、学業などで村を出ても戻ってくれるような思いやりというのも出されていました。

そのまま南牧村を愛する子というところでは、村の人に名前を覚えてもらえるような、元気でコミュニケーションを積極的に行える子というのと、あと南牧村の消防団に将来入ってもらいたいというのも出ていました。

想像力を働かせて自分で考えて判断できる子では、自分の思いと伝えられる、発想力、そして想像力が豊かな子、またAIに負けない人間味のある子供、そしてまたITが活用できる子というのが上げられていました。

チャレンジする勇気を持てる子というところでは、主体性、何かに打ち込めるような子供、へこたれない子供、自分のやりたいことが見つけられる子というのが出ました。

意外とそのほかがたくさん出ました。その中で多かったのは、自分で自立していくことができる子、そしてまた子供には結婚してほしい、孫の顔が見たい、また家庭をつくりたいという気持ちを持てる子というのも出ました。また、自主性、協調性どちらもある子、人に流されない、人の言葉に右往左往しない子というのも出ました。

以上でした。

○中嶋会長 ありがとうございます。

次に、Bグループよろしくお願いします。

○委員 Bグループでは、自分も相手も大切にできる子ということで、駄目なこともいいことも言い合える、駄目なこともいいことをしっかり説明して、教えることができるように、親、学校、地域で育てていったほうがいいんじゃないかという意見が出ました。また、お互いにふるさとを語り合える、自慢できるような、そんな社会人になってもらえるような人材をつくっていききたいということが出ました。また、相手の話に好奇心を持てる、自分の考えを論理的に組み立てることのできる子をつくっていく。そんな子になってほしいということが出ました。

南牧を愛する子に対しては、項目では、地域で村のよさを掘り下げて、子供たちが気づいていける環境をつくっていったらどうかと。また、南牧村で生活していることを自慢できるようにする。普通でないことが当たり前じゃないことを気づいていけるような子供になってほしいと、そういう意見が出ました。また、南牧村のことを嫌なこと、好きなことを自信も持って言えるようになってもらいたい。

想像力を働かせ、自分で考えて判断できる子という項目では、大人の都合で制限させない。南牧ならではの自然体験、スキー、山登り、産業、スケート、野菜作りなどを体験させたらどうかという意見が出ました。

チャレンジする勇気を持てる子という項目では、失敗してもいい環境をつくっていききたい。スポーツ活動への支援、活動する場、やりたくてもできないということのないような、そんな環境をつくっていくことが必要じゃないかということが出ました。また、高収入、高学歴にチャレンジしてもらいたいという意見がありました。

以上です。

○中嶋会長 では、Cグループよろしくお願いします。

○委員 Cグループでは、まず次世代ということを念頭に置きながら、やはりA I等の台頭の中でコミュニケーション能力ですとか、自分で判断したりだとか、主体的に物事に関わるとか、自立した心等々つける、こういった子になってほしいなという一方で、全員がそういった主体的になれるかといったら、そうでないお子さんもいる、そういったことも含めて、それらを全てを包み込むような相手を思いやる気持ちだとか、自分のことを大事にする気持ちだとか、こういったことも大事にしたいという意見、こちらがとてもCグループでは出たかなというふうに思います。

また、加えて南牧村に子供たち残ってほしいという、そういったご意見もなるほどなと思って、そのとおりだなと思って聞かせていただきました。

以上です。

○中嶋会長 ありがとうございます。

では、Dグループお願いいたします。

○委員 お願いします。

Dグループでは、自分も相手も大切にできる子ということで、やはり相手意識を持ったり、相手を大事にできる子供に育ってほしいなという意見が出ました。それから、自分らしく育ってほしいということで、自分らしくあるためには、やっぱり子供たちの世界を広げてあげたいなということで、南牧でやっているカナダへのものとか、本当にそういった機会が子供たちに与えられるような中で、世界を広げていってもらいたいなという意見も出ました。

それから、子供たちにはしっかり目標を持ってもらう、そういった機会を多く与えてあげたいし、その中で目標に向かってやり続ける子供に育ってほしいという意見も出ております。

また、とにかく健康な子に育ってほしいという意見も出ました。あと、いろんな場面で決断ができると、自分で自己決定できるような子になってほしいという意見も出ております。

それから、今までのところで出ている9ページの上の意見を見返しますと、どれも大事な意見で、全て本当に大事だな、いいな、こういうところの願いと自分は考えは一緒ですというご意見もありました。

逆に、いろんな子供に対する思いはたくさん出切っているのも、早く前進させていけたらいいなと、それに向けてはまた具体的な話がどんどん進むような形で進められたらなというご意見も出ております。

また別の観点からは、とにかく子供たちがそういった育ちができるような環境を少しでも早く整えてあげたいなというご意見もありました。

以上です。

○中嶋会長 ありがとうございます。

では、最後にEグループお願いいたします。

○委員 それでは、Eグループ、最後になりますけれども、各グループで出されたのと近いものが本グループでもたくさん出されました。

次世代の子供たち、皆さん、どこを考えるかなと皆さん思われていましたけれども、書き

始められたら次々と筆が進みました。皆さん、ご自身のお子様や今、見ている子供たちの姿を中心に語られたり、思われたり、出されたかなという思いでいます。

非常に私も一緒に、全員、少し時間がなくて最後までたどり着けなかったですけども、皆さん熱く思いを語っていただき、非常に明るく、これが全部かなったら非常に明るい村になるなという思いがしております。

出されたものを幾つか紹介させていただきますと、自分の考えを持ち、それを発表、発信できる子供たち、思考力という言葉も出ています。嫌悪感を持っても、抱いても言動に出さない、いじめや問題のない生活ができるように、いいところもあれば、いろいろあるわけですけども、一緒に仲よく、私は和を大切にというふうに受け止めさせていただきました。

それから、自分の武器を持つということ、現在、学習もそうですけども、村にはスケートに取り組んでいる子たちもいます。それから、パソコンもありますけども、そういう自分の武器、特技、そういうものを伸ばせられたらということです。そして何よりも元気で育ってほしい、健康、丈夫ということが大事だろうと。いじめは絶対ないことを望むということ。それから、人間力を高めたい、体も心もメンタリティーという言葉も聞かれました。

それから、先人の取り組まれていた村を開拓されてくださった、そういった思いも後世に伝えられるように、こちらも継承できればということです。

自分の考えを言えない、言いにくい子たちが多いというふうに感じられている方もいます。ぜひ、堂々と語られる子供たちにということです。

自然が豊かな村です。その村の中でいろんな体験ができれば、村が好き、大好きになればという子たちになってほしいという願いであります。

以上で終わります。

○中嶋会長 ありがとうございます。

今、出していただきましたご意見は、次回までに事務局でまとめまして、皆さんにお渡しする予定となっております。よろしくお願いいたします。

それでは、討議3といたしまして、南牧村の子供にとってどんな学びが必要かと、今はどんな人になってほしいかということをお話しいただいたんですが、それを受けて、その子供になってもらうためにどんな学びが必要かという形のテーマになります。

それでは、まず教育委員会の事務局より説明をお願いいたします。

○渡邊教委指導主事 お願いいたします。

令和5年度、これからの南牧村の学校で出された学びについて、意見、たくさん出してい

いただきました。配付資料の中の16ページから18ページまでに載せてあります。付箋に書いていただいたものをそのまま記載していますので、ちょっと分かりにくいところもあるかと思いますが、ご自分のお考え、意見を考える参考にしていただけたらと思います。たくさんあるのでここでは言いませんがお読みください。

それから、今、学校で取り組んでいることについてお話をしたいと思います。

まず、1つ目は、子供が学ぶ学習です。

探究的な学びともいいます。先生が教える授業からの脱却を目指しております。

2つ目は、もの、人、こととリアルに関わることです。

今はインターネットが使えるようになり、分からないことや知りたいことはネットを使えば何でも分かる時代になりました。しかし、自分の目で見て、耳で聞いて、やってみる、実体験に勝るものはないと考えます。そのために総合的学習の時間や生活科の充実、学校から出て地域を知る学習、村の人に先生になってもらって子供と関わっていただくことなどを行っています。

3つ目は、一人一人が安全・安心、自由な学校を目指しています。

一人で悩みを抱えることがないように、話したいと思える雰囲気づくりやチームで関われる体制など、困ったことを相談できる、そういう学校になっていきたいなと思っております。

4つ目は、小さな集団から大きな集団へです。

小学校は既に小規模の学級になっています。意図的に大きな集団をつくり、多様な考えに触れたり、多様な人との関りが持てる工夫をしています。異年齢の連携、それから南小、北小一緒の小小連携、それから小中連携、地域連携などです。

また、南牧の子供たちは地域みんなで育てることを大事にして考えています。子供は学校だけで育つのではなく、教職員として、保護者やPTAとして、教育委員会や行政として、地域住民として、様々な立場で南牧の子供たちを育てていけたらいいと思います。

4つのタイヤがいつも回っていて、四輪駆動で前進できる南牧村を目指せると子供の未来に光が当たってくるのではないかと考えております。

以上です。

○中嶋会長 ありがとうございます。

それでは、先ほどと同じようにグループワークで意見交換をお願いいたします。今、渡辺先生、貼っていただいたのやら、先ほどの以前出たものも参考にさせていただいて結構です。どんな意見を言っていただいても間違えということではありませぬので、とにかくどんな学

びが必要かという視点で討議をしていただきたいと思います。よろしくお願いします。

時間は 20 分ぐらい、35 分でいいですか。

この時計ちょっと遅れていますので、これで 35 分でいいですか。じゃ、35 分までお願いいたします。

また、先ほどのように発表いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

(グループ別に意見交換)

○中嶋会長 それでは、そろそろよろしいでしょうか。

それでは、今、出た意見を先ほどと同じように発表いただきたいと思います。

今度は E グループのほうから発表いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○委員 それでは、E グループです。

今回は全員に回ることができまして、先ほどのところから次世代に願うところから、具体的な子供たちの姿ということで上げていただきました。非常に中学校にかける期待や願いが大きいなということで、皆さんから熱い言葉や視線を頂戴したところでありました。

先ほどからつながって、自然体験をぜひ学校でということ、海ということ、皆さん共通して海の体験を子供たちにというような、山もあるんですけども、そのほかに野菜作り、地域の人のつながり、遊ぶということも大事にするということが出されました。

それから、外国人の方も研修生はじめ大勢いらっしゃいますので、異文化に触れて、また将来に役立てるということ、それから様々な資格、検定に挑める子供たちの環境をつくる。現在も数学検定、漢字検定、英語検定など希望すれば村でもご支援いただいているわけですが、また幅が広められればということです。

あとは、教員以外、学校の職員だけでは足りないところも、いろんなゲストティーチャーみたいな招いたり、いろんなノウハウを身につけるという願い、そういった学びができればということで、様々出されました。

以上です。

○中嶋会長 ありがとうございます。

では、D グループお願いします。

○委員 お願いします。

最初に、今、学校が取り組んでいる学びについて、今、どういったことが行われているかなんていう話も出ました。それ以外のところでは、ICT に関してネット社会だったり、そういった ICT 機器の活用を十分できるような学びというのが大事じゃないかなと。しか

も専門的な活用というか、外部講師の方とかから教えていただいたりしながら、動画だとか、ネットの危険性だとか、そういった社会に対応できるような学びの機会というのは大事じゃないかなんていうご意見がありました。

それから、南牧の子、今も交流はしているんですが、地域の方と日常的に交流できるような場を本当に大事にさせていただいて、地域の方との交流があったから学べるものというのを本当に大事にしていけるようなものがないなというご意見がありました。

それから、子供たちがやりたいと思えるものというのにたくさん出会えて、多様な経験ができると、いろんな経験に出会える中で、学びを広げていっていただくような場が必要ではないかということです。

あとは、異年齢の中での学び、人間関係についての経験というものが積めるような場というのは、本当に貴重じゃないかなということでもあります。

それから、どんな学びが必要かということに関して、現場で子供と毎日接している先生方の意見を大事にしていくのが重要だというご意見も出ました。

以上です。

○中嶋会長 ありがとうございます。

では、Cグループお願いいたします。

○委員 Cグループお願いします。

3つのキーワードがあったかなというふうに思います。

1つは特化する。もう一つは人、それから3つ目は地域全体。

特化するというのはICTとか、英語とか、そういったものに特化して、これだったら南牧村の子供たちはどこにも負けないよというような、そんな教育もいいのではないかというお話がありました。

それから、人であります。安心というところに関わって、頼れる人がいるとか、認めてくれる人がいるだとか、話を聞いてくれる人がいるだとか、それから村にある企業、働く人に触れ合うだとか、そういったことをまた地域全体で関わっていくというようなことが出ました。

この3つとはちょっと関わらないのかもしれませんが、なるほどなと思ったのは、少人数という、人が少なくなってきたということのマイナスの面もあるんだけど、でもそれが逆に強みにも変えられるんじゃないか。よさにもなるんじゃないか、そこのよさを生かした学びというのをぜひこれからも大事にしていってほしいという、そういったご意見も

ありました。

以上であります。

○中嶋会長 ありがとうございます。

では、Bグループお願いいたします。

○委員 Bグループでは、学年を超えた合同の学習をしたらどうかという意見がありました。

また、発表の機会をどんどん与えて、発言力をつけたらどうかという意見もありました。また、自分から興味を持って学習ができるような学びをしたらどうかという意見も出ました。あと、子供たちに野外授業の場をもっと設けて、伸び伸びと授業をしてほしいという意見、また先生が伸び伸びとできるような教育の環境をつくるのも必要じゃないかということが出ました。

以上です。

○中嶋会長 ありがとうございます。

では、一番最後、Aグループお願いいたします。

○委員 Aグループです。よろしくお願いします。

Aグループでは、出されたものを5つの分野に分けてみました。

学習と教育に関しては、タブレットを使っているけれども、それをしっかり使っているのか、それが遊びに使われたりといったしつけの部分が必要ではないかということも出されました。また、子供たちが本に親しむことができる図書館のある学校がいいのではないかな。英語がしっかり話せるようになる教育ができたらいいいのではないかな。

あと、もちろんですけども、分かりやすい授業が受けられる。勉強だけでなく、社会性を伸ばしていけるような教育が受けられたらという意見が出されました。

また、安心・安全、自由というのが先ほど出ましたけれども、その分野では、子供自身が考えて行動できる、それができるような援助が受けられる教育。また、子供の心に響くような講演を聞くような場が与えられること。また、自分自身の表現力、芸術的なものもあるかもしれないけれども、そういったものも身につけることができる教育。そして、安心して自分が表現できる場所であってほしい、自分の思いがきちんと伝えられるような、そのような場であってほしいという意見が出されました。

また、人との交流では、やはりデイサービスでの訪問などお年寄りとの交流やまた地域の人を巻き込んだ交流をして、人の気持ちが分かる子供になってもらいたいという意見が出、そしてほかのところでも出ていましたけれども、村の特色、また自然を通しては、自然を通

しての山遊び、川遊び、また冬の間外で活動ができる、そういった環境も欲しい。年間通して運動ができるようにしてほしいというのもありました。

また、農業などを通じて南牧の基幹産業を体感してもらいたい。食育も大切です。そして、学校ボランティアと学校職員、児童・生徒、これは交流でした。

そして、受動的ではなくて、能動的に学習していけるような教育をしてほしいというものが出ました。

最後に、将来のためにというところで、社会に出るための勉強を学校でやってもらいたい。また、先を見通し、将来困らないように自立することができる、そういった教育をしていてもらえたらいいんじゃないかという意見が出ました。

以上です。

○中嶋会長 ありがとうございます。

色々な意見を出していただきましてありがとうございました。

先ほどもお伝えしましたが、この意見は事務局でまとめまして、皆さんにお渡ししたいと思います。今までに出た意見に加えて、また次のステップにしていきたいと思います。

本日、討議は以上となっております。ご協力ありがとうございました。

進行を事務局へお返ししたいと思います。

◎その他

○津金教育次長 それでは、教育長から皆様にお伝えしたいことがあります。

○今井教育長 皆さん、大変お疲れさまでございました。

私から1点お話しさせていただきたいことがございます。

本日の第2回目の会議で、前回の会議のときに義務教育学校についての資料を準備し、皆様へお渡ししたいということを申し上げました。ご参加されている委員の皆様の中には、その資料どうなっているのかなということを思われている方もいるかと思います。

本日の会議では子供たちのこと、求められる学びについて、グループ別に皆様に話し合っただき、理解を深めてほしいと思いまして、お示しする資料を変更させていただきました。

前回の会議での発言の内容と違ってしまいまして申し訳ございません。

義務教育学校についてまとめた資料につきましては、次回の会議で皆様へお示ししたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○津金教育次長 本日、出していただきました委員の皆さんの意見は、事務局でまとめて第3回の会議に反映させていただきます。

次回は2月27日木曜日午後7時から第3回建設検討委員会を開催する予定です。

最後に、振り返りカードでの記入をお願いいたします。記入した人からお帰りください。

◎閉会の宣告

○津金教育次長 以上で第2回南牧村小中学校建設検討委員会を閉会いたします。

皆様、お疲れさまでした。

閉会 午後 8時36分